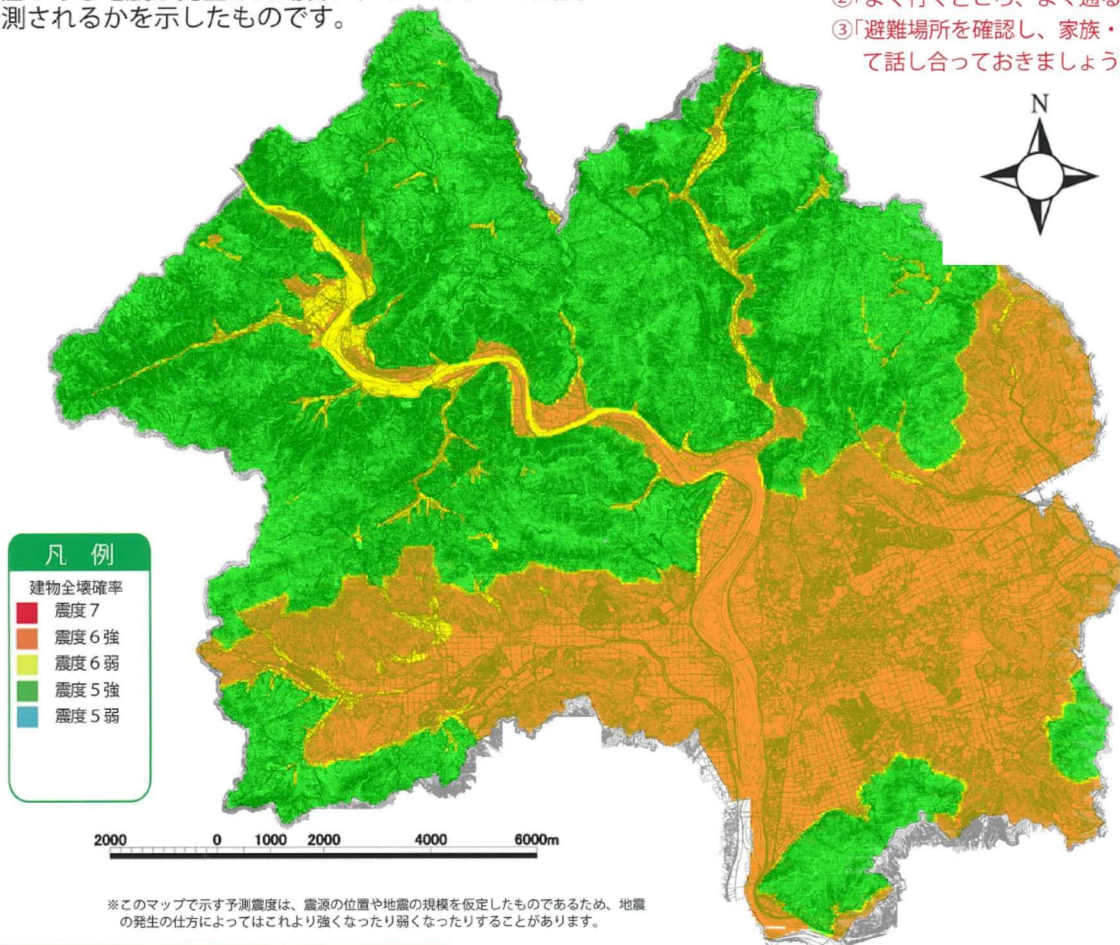


総社市ゆれやすさマップ

この「ゆれやすさマップ」は、総社市域に影響を及ぼす可能性のある地震が発生した場合に、どのくらいの震度が予測されるかを示したものです。



凡例

建物全壊確率

震度 7
震度 6 強
震度 6 弱
震度 5 強
震度 5 弱

※このマップで示す予測震度は、震源の位置や地震の規模を仮定したものであるため、地震の発生仕方によってはこれより強くなり弱くなったりすることがあります。

●ゆれやすさマップの活用方法

- ①「わが家が立っている地盤のゆれやすさを確認しましょう」
- ②「よく行くところ、よく通る道のゆれやすさを確認しましょう」
- ③「避難場所を確認し、家族・地域で安否確認の方法などについて話し合っておきましょう」

震度階級表

震度 6 強
立っていることができず、はわなないと動くことができない。耐震性の低い木造住宅では倒壊するものが多い。

震度 6 弱
立っていることが困難になる。壁や柱が破損するものがあり、耐震性の低い住宅では倒壊するものが多い。

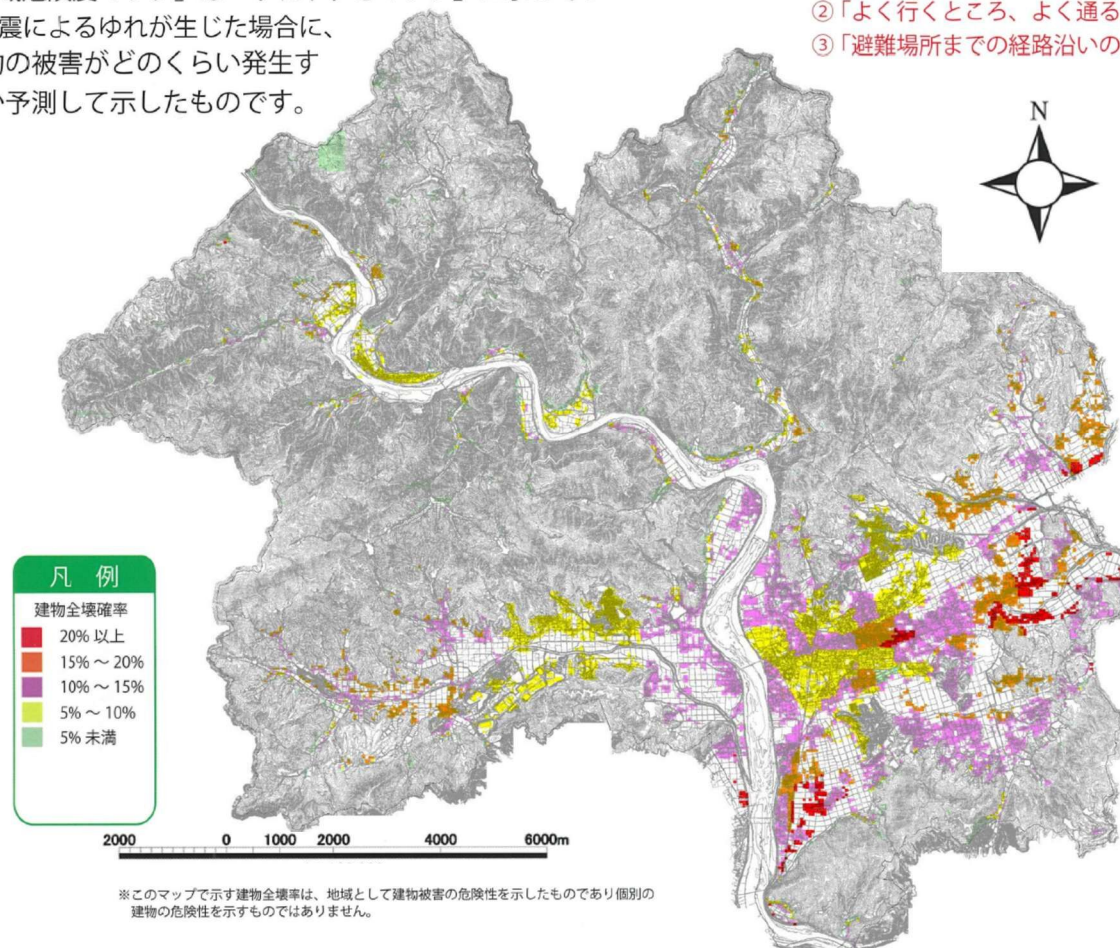
震度 5 強
多くの人が行動に支障を感じる。耐震性の低い住宅では、壁や柱がかなり破損したり、傾くものがある。

震度 5 弱
多くの人が、身の安全をを図ろうとする。窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。

※気象庁震度階級解説表より抜粋。

総社市地域危険度マップ

「地域危険度マップ」は「ゆれやすさマップ」に示している地震によるゆれが生じた場合に、建物の被害がどのくらい発生するか予測して示したものです。



凡例

建物全壊確率

20% 以上
15% ~ 20%
10% ~ 15%
5% ~ 10%
5% 未満

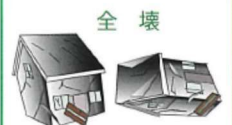
※このマップで示す建物全壊率は、地域として建物被害の危険性を示したものであり個別の建物の危険性を示すものではありません。

●地域危険度マップの活用方法

- ①「自分の家の近隣地域の危険度をチェックしましょう」
- ②「よく行くところ、よく通る道の危険度をチェックしましょう」
- ③「避難場所までの経路沿いの危険度をチェックしましょう」

「全壊」とは？

全壊とは、自然災害による建物の被害の程度の中でも、最も大きく被害を受けた状態を示します。具体的には、平成13年6月に国によって、「災害の被害認定基準」が定められ、居住する上で危険な状態を全壊としています。



建物の全体、もしくは一部の階がすべて倒壊している。外壁や柱の傾斜が1/20以上である。